

報告書抄録

ふりがな	きょうとふいせきちょうさほうこくしゅう
書名	京都府遺跡調査報告集
副書名	
巻次	第162冊
シリーズ名	京都府遺跡調査報告集
シリーズ番号	第162冊
編著者名	石尾政信・村田和弘・中川和哉・岩松保・松尾史子
編集機関	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
所在地	〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40番0 Tel. 075( 933 ) 3877
発行年月日	西暦2015年3月31日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡 番号					
ながおかきょうあとさきょう・しもつじょうあと	きょうとふきょうとしふしみくよどおおしもつちょう							
長岡京跡左京第565次・下津城跡	京都府京都市伏見区淀大下津町	26109	3 1203	34 ° 54 28	135 ° 42 31	20131016 ~ 20140318	500	建物建設
むくのきいせき	きょうとふそうらくぐんせいかちょうおおあざしもこまこあざむくのき							
棕ノ木遺跡第11次	京都府相楽郡精華町大字下狛小字棕ノ木ほか	26366	46	34 ° 46 28	135 ° 47 58	20131106 ~ 20140304	620	建物建設

備考：北緯・東経の値は世界測地系に基づく。

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
長岡京跡左京第565次・下津城跡	城跡	中世以降	-	土師器・瓦器・瓦・土製品・銭貨	溝状痕跡
棕ノ木遺跡第11次	集落	縄文 古墳 平安～鎌倉	土坑・ピット 土坑・ピット 礎敷き・掘立柱建物・柵・土坑・溝	縄文土器(晩期)・石鏃 須恵器 土師器・瓦器・青磁・白磁・瓦質土器・瓦・温石・銭貨・鉄滓	

所収遺跡名	要約
長岡京跡左京第565次・下津城跡	<p>今回の調査では、下津城に関連する顕著な遺構・遺物は確認されなかったが、土層の観察により、調査地付近は少なくとも弥生時代後期から古墳時代前期以降近代にいたるまで、小畑川と東側の桂川に挟まれた遊水地として機能しており、大量の砂質土・粘質土などが繰り返し堆積したことがわかる貴重な調査成果を得ることができた。</p>
棕ノ木遺跡第11次	<p>今回の調査では、縄文時代・古墳時代・平安時代末から鎌倉時代の遺構・遺物を確認した。縄文時代・古墳時代については、遺物量と遺構の密度から生活域から離れていたと考えられる。</p> <p>平安時代末から鎌倉時代については、大型の掘立柱建物や柵が見つかり、鍛冶関連の遺物が出土した。南側の第8次調査の成果と合わせると、12世紀後半から13世紀初めまで南側を柵で区画された小規模な建物が2棟並列しており、13世紀中ごろに区画する柵がなくなり、大型建物を中心に鍛冶関連の遺構が点在する工房域として利用されていることが明らかになった。</p> <p>周辺条里地割に見られる1坪の北辺1遇ではあるが、中世の土地利用変遷を想定することができる貴重な調査例となった。</p>